



# 郡上長良川ロータリークラブ

第 46 期クラブテーマ

## 子供たちの未来へ

会長：松森正和 副会長：藤代昇 幹事：佐藤備子

例会日：毎週水曜日 18：30~（6-9 月末 19：00~）

例会場及び事務所：白鳥町農業指導研修センター 2F

TEL：0575-82-3822 FAX：0575-82-5191

E-mail：gsrca@abelia.ocn.ne.jp 発行：クラブ会報委員会

### 第2130回 令和5年11月1日(水)

## 本日の行事 美濃・郡上八幡・郡上長良川 RC 合同例会

2023-24 年度

松森正和会長

\* 地区事務所より

幹事報告

佐藤備子幹事

・ 地区補助金申請募集の案内

\* 11 月レート 1 \$149 円

\* 地区大会事務局より 駐車場について

\* ガバナー事務所より

\* 郡上八幡 RC より IM 礼状

・ 11 月財団月間リソースの案内

\* 週報拝受 美濃、関中央 RC

・ ポリオデーフォトコンテスト応募のお願い

\*\*\*\*\*

### 第 2 1 2 9 例会報告

#### 会長挨拶

2023~24 年度 松森正和会長

今月は地域社会の経済発展月間と米山月間という事で、その月の月間の話を一度はしたいと思いますので、鼻痛いと思います。

地域社会の発展と言っても漠然とした感じですが、ロータリーの友に関連の記事がありました。児童養護施設を支援する NPO 法人の話が載っていました。児童養護施設というと、僕らの時代はタイガーマスクを思い出します。今でもタイガーマスク募金とかありまして、施設の支援をしたりしているようです。児童養護施設は、昔は親が亡くなったり、行方不明になった場合に、その子供が暮らすということがありましたが、今は親の虐待によって子供を保護する事が右肩上がりが増えてきているようです。時代を反映しているなと思います。

その話の中では高校 3 年生まで施設にいて、そこから進路を決めるのですが、就職する人は良いですが、僕も高校の時は何も考えていませんでしたし、目標がない人は大学に行くことがあります。養護施設の子供たちは、そういった時に経済的な理由であきらめざるを得ず、就職するという道を選ぶ人が多いようです。やりたいことがないのに就職する形になってしまい、給料が少なかったり、やりがいがなく退職してしまう人が多いようです。全国平均で 16% が 1 年間で離職するのですが、児童養護施設の場合は 43% という離職率があり、非常に高い数字になっています。

奨学金が今は充実しているので、それをもらって進学するという方法もありますが、日々の生活費はないのでアルバイトをしたりして、2 割の人が進学しても中退するような状態になっております。

児童養護施設に関わったことはないのですが、調べる所によると岐阜県には 10 の養護施設があり、郡上市には美並町に合掌苑があります。せっかくですので、こういう話を読んで、今後気にかけて機会があれば寄ってみたいと思います。郡上長良川ロータリークラブは、皆さんがそれぞれ経済活動をされているので、その意味では日ごろから地域社会の経済発展には寄与されていますが、中には若者を育てようという気持ちの人が非常に多いと感じますので、引き続き地域の子供たちと何らかの形で関わっていけるといいと思います。

米山で鶴が、入会間もない人はなじみがないかもしれませんが、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会と言って、勉学、研究のために日本に在留している私費外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンから寄付金を財源に奨学金を支給する制度です。クラブで奨学生を受け入れて、奨学金で支援することにより、日本と世界のパイプをつなぐ人材を育てようという事です、与党クラブでも中国の呉君を受け入れて支援しました。何年かに 1 回は回ってくるようになったようですので、その時は是非よろしくお願ひします。詳しくは先輩方に聞か、毎年豆辞典が配布されますので、勉強になると思います。以上で終わります。

皆様、お久しぶりでございます。3, 4年前に法要をさせて頂き、法話を2度ほどさせて頂きました。先ほど「古文書をよままい会」と紹介していただきましたが、古文書を6, 7年前だと思いますが、勉強を始めました。

私は元教師で専門が数学です。15年前に「生き物たちのエレガントな数学」という本を出版し、5千部以上売れています。全国の図書館や学校に売れているそうです。もう15年前になり中身を忘れてしまいました。

この鷺見氏 鷺見郷一覽という本は「古文書よままい会」でやってきた高鷺の文書です。ものすごく難しく、私の母親に見せたら「わからん」と言われてしまいました。出版記念会をした時に皆さんに見せると「難しすぎるので、もっと読み砕いたのを出せ」という事で、第2版を編集しております。

長年数学をしてきた者が、なぜ古文書をやるのかという私の実家のお寺に古文書が昔からありました。(足利将軍より鷺見氏代々勘定写し)という古文書があります。これを最初の方は読めますが、途中から読めないのです。これを何とか読まないといけないと昔から思っていたのですが、数学ばかりしておりましたので、読む機会がありませんでした。6, 7年前に大和町の佐藤光一先生が「古文書をよままい会」をされていて、そこに誘われました。退職して暇でしたので、勉強を始めました。皆さんは春画をご存じですか。江戸時代の浮世絵です。私は興味を持ち、その春画に書かれているのを読みたいと昔から思っていたのですが、やっと最近読めるようになりました。そういう事を基にして、高鷺で古文書を読むという事を始めました。もちろんこの本は私一人が作ったわけではありません。古文書をよままい会と、いろんな方たちの協力、援助、編集で出来ています。

もう一つ紹介したいのは高鷺文化財保護協会というのがあり、その中の一環として古文書よままい会があります。部活動のように思っただけであればいいと思います。

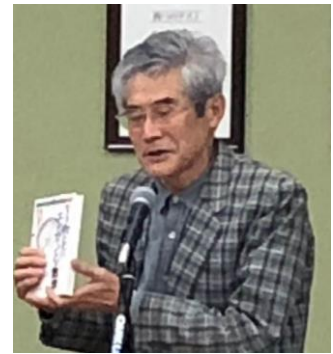
色々な事をしてきましたが、やっていますと欲が出るんです。何が出てきたかという、ただ読んでいただけではつまらない、それを形あるものにしよう、物を生み出さないと面白くないです。物を生み出すという事で皆さんと団結し、形あるものにする事でエネルギーが出てきます。本を生み出すという事をしてきましたが、この本の題名が「鷺見氏」です。鷺見さんは高鷺出身です。したに鷺見郷一覽と書きました。これは鷺見さんの文書が中心ですが、鷺見さんだけでは高鷺に鷺見さんはいる事はいいますが関係ないので、鷺見郷と書きました。

江戸時代、鷺見郷切立村というように必ず書かれていました。昔はあの一帯を鷺見郷と言っていて、その鷺見郷の地頭が鷺見さんだったということです。昔は地元や土地の名前を付けます。ですから鷺見さんは全国に1万から2万人見えると思いますが、その元は高鷺であります。そういう話をして、シンポジウムをしました。土砂降りで大変でしたが、集まった方が終わった後に質問が出ました。東氏は1221年承久の乱というのがありまして、承久の乱で上皇方、京都方が滅ぼされるのですが、その土地を東側のそれぞれの人たちに分け与えるということをしました。その中で、千葉県の下野の東氏が大和へ来たのが1221年に来て、今年800年になります。しかし「高鷺はもっと古いぞ、」というんです。鷺見氏は文書の中でも承久の乱の時に、関東方に鷺見氏は味方します。そして下知状を受けて鷺見郷の地頭となっています。その前に北条時政がありますが、時政は執権になって将軍の代わりに下知状という文書を発行する期間が5年間あるのですが、その時政の文書がちゃんとあるという事がこの本のなかにあります。1200年から1205年ですから東氏より20年早いと威張りました。後々東氏には負けてしまいますが、年代的には古いという事で、証拠として出版しようという事になりました。

負けん気も含めて、もう一つ私、高鷺は田舎だなと僻地だなと昔から思っていました。

先ほどのシンポジウムの時に質問が出まして、「東氏は大和に来た。大和は米がとれる」

例えば大和の剣で米が取れるようになったのは、江戸時代の初めに関氏が剣までの用水を作るんです。牛道川から水を引いて剣用水を作って、米が千石も取れるような土地になった昔から米がとれるような所ではなかったと思います。「大和や美並は米がとれるが、高鷺は米が取れません。記録にもありますが、南北朝時代に、あちこちに転戦しているんです。名古屋、京都、琵琶湖等に行って活躍しています。それはどうして可



能だったのか、高鷲は貧しい所なのに」という質問が出ました。

その時の答えははっきり覚えていませんが、私の父親が昔から言っていました、「ぼっとり」知って見えますか？田んぼの横に舟形の水車で、水を貯めると重みで傾いて水が出て、ポトンと跳ね返ると、反対側にうずがあり、そこに米を入れておくと杵のようにトントンと引いていくのをぼっとりと言います。それがあちこちありました。ある時大雨で流されました。すると近所の人「あのぼっとりはどこへ行ったんだろう」と言ったら「そんなの決まるとる、岐阜へ行ったに違いない」「こんなところから岐阜にいけるはずがない、何でそんなことを思うんや、どこかで引っかかるとるわ」と言うと、父親は「あのぼっとりはいつてもギー、フー、と言っとった。」という話を父親はいつもしてくれました。それくらい高鷲の人たちは、どうせ転ぶんなら下へ転べと昔から言ってきたんです。それくらい貧しかったとも言えます。雪は降るし、私の妹は「お嫁に行くなら雪の降らない所がいい」と言って養老へ行ってしまいました。雪の中で生まれて雪の中で死んでいくんだと思ひながら暮らしてきました。高鷲は昔からそうだったけれども、人がいなくなったことはないです。かえって人が多いです。

明治時代に、高鷲の人たちの中で、次男三男が特に多かったですが、北海道に開拓に行っています。北海道へ行って開拓してそこでも苦労されています。戦前は満州へ行き開拓しました。敗戦してここでも大変苦労されました。帰ってきて、どうしようかという事で、実は100万人以上活動したと思いますが、日本各地で受け入れるという事で、何処で住み、開拓するかという事で考えて、郡上の場合、ひるがの高原、鷲見上野、切立の3つの大地があり、そこを開拓しようとなりました。開拓と言っても例えば鷲見上野は松林です。松は切るのはいいですが、根っこが困ります。それが出来たのは戦後のブルドーザーのお陰です。人力では無理です。蛭が野は湿地帯で、元々大きな湖でした。それを開拓するという事は苦労しています。その開拓のおかげで蛭が野の牛乳と、鷲見上野の大根のお陰で、人口が少し増えました。

高鷲の文化財保護協会で、町民センターに集まって、色々な人たちの昔の苦労の話を聞く会があります。その中で、若い人達の話の話を聞きました。高鷲郷土料理新聞を作っている若いお母さんたちがいます。何を話してくれたかと言いますと、「ひきずり」についてです。味噌の中に何でもぶち込みます。結構おいしいです。独身時代、簡単でよく作りました。余裕があれば豚肉や牛肉を入れると、油が出て美味しくなります。豆腐、白菜、ネギ、何でもOKです。それを毎日食べても全然あきません。最後には土鍋が割れたのを覚えています。それくらい毎日食べました。

それを若い母親が「これを一つの高鷲の文化財として、郷土の誇るべき料理として、民宿や旅館に泊まる人達に振る舞う事は出来ないか」、という事でした。「あれは貧しかったから、そういう料理をしたんだぞ。」豪華な料理ではありません。私もその時は同じことを思いました。そこに、麦島君のおじいさん、博昭さんがこう言われました。「昔のおっかあ達は金はなかったが、知恵はあった」と言うんです。知恵があると聞いて、商品として買うものはなかったけども、いっぱい知恵を出し、周りの色々な物を利用するという知恵は、貧しいのではなく逆に豊かではないか。若い母親達は、そのことをみんなに伝えたいのではないか。振り返ってみると、高鷲という所は決して貧しかったばかりではない、考えればいっぱいあります。いまは誰も作れなくなりましたが、この文書の中に斎藤道山のお礼の手紙があるんです。斎藤道山がたぶん高鷲だと思えますが、鷲見さんに対してお礼を出しているんです。何のお礼かという蓑を作ってくれたお礼です。蓑を作るという事は一つか二つかと思うでしょう？それに対して刀をお礼に出しているんです。刀は50万か100万すると思うんです。蓑一つでは50万もしませんので、大量に作ったのだと思います。

ドラマのどうする家康を見ていたら、家来みんなが蓑を被っていました。蓑は大事な軍需品です。ですから蓑を出したのではないかと思います。

私の所では報恩講様で昔 菓子を紙袋に入れてもらいました。私が覚えているのは切干イモ、ガヤ、クルマミ、時々干し柿の皮を干したのが入っています。結構甘くておいしいです。栗もありました。そう思うと今の菓子より豊かではなかったなと考えてしまいます。

こういう田舎の中で、なぜ縄文時代から人々が暮らしてきたんだろうと考えると、はっきり言って山と川です。山というと、高鷲では大日岳と鷲ヶ岳、川は長良川です。昔、この川は長良川と言っていませんでした。長良川と呼んでいたのは武儀郡の下流からです。郡上は上之保川と言っていました。上之保川が作った地形が郡上です。その恩恵を受けて用水を引いたり、用水を引くにしても大変苦労しています。その地形の中で、どういう暮らしをしてきたかという、川と山です。山は焼き畑です。大日岳は昔から有名です。長滝の神社は白山神社で、白山は元になります。郡上には白山神社が沢山あります。私は寺ですが、村の鎮守は大事だと考えています。京都大学の先生で広井良典さんだと思いますが、「白山鎮守の森コミュニティ」というのを作られました。



例えば石徹白の中居神社の中で暮らしていく為には、水力発電、川がないと水力発電で出来ませんので、水力発電は山の恵みだという具合に考えます。その時に3つの大事な事を、豊かであるという事が大事だということで紹介したいと思います。

一つは「暮らし」です。暮らしが成り立たないと、いくら理想を言っても成り立ちません。

暮らしだけあっても、お金があつて商品がたくさん買えたから豊かになるかと言えるのか、私たちは実感していないのではないか。そうすると二つ目は「命」です。自分たちの命を大事にする。三つ目は「心」です。この3つがお互いに関連しあう、繋げば三角形になる。三角形のコミュニティを考える。そうするとその中で私たちがもう一度見直していくとしたら、どういうことがあるだろうかというので、私はそこでもう一度考えましたが、「心というのは何だろう」と思うと、心は遊びだと思ふんです。遊びというと私たちのイメージではいけないと思うかもしれませんが、遊びなしに生きていけません。遊びは大事なんです。現役時代、ほとんど仕事をせずに遊んでいたように思います。ただし、その中に営みが必要である。もう一つ大事な事は、それは何だろうかという、皆さんがここへきて私の話を聞くという事、それは話を聞きながら皆さんの心の中で学んでいる、考えている、そういう学びという事が大事ではないか。それが命と暮らしと心と、もう一つ発展させたようなものではないか。ですから学びという事、そこに命など全部含めると、物を作ったり、勉強したり、郷土料理新聞など、どんどん発展させていく。私は教員をしておりましたので、部活動がありますね。大勢でなくても少ない人数で部活動をやる。大人も出来ませんか？ロータリーも部活動の一つですよね。そこに学びがあり営みがあり、暮らしがあるということを考えていくと、高鷲の中で営み、暮らし、学びという事が新しい事を生み出すのではないかと願いながら、試みをしていこうと思っています。ご清聴ありがとうございました。

## ニコBOX

## ニコBOX委員会 井俣愛美君

松森正和君 上村文隆様、本日は卓話よろしくお願ひします。どのような話か、興味津々です。

同文 大村太郎君、寺田澄男君、美谷添生君、羽土洋司君、石徹白秀也君、美谷添里恵子君、畑中知昭君、佐藤備子君、山口里美君、旭美香君、麦島洋介君、井俣愛美君、清水英志君、杉山賢君、奥村照彦君

山下誠君 本日は高鷲例会です。講師先生は、実は同級生ですが、古希を超えると全く異なる人生経験です。どれだけ違うか反省も交えて、よろしくお願ひ致します。

藤代昇君 共立会の力で、立山の室堂まで行きました。雪が30cm位降っていました。上村様、ご苦労様です。楽しんで聞かせていただきます。

小島正則君 上村文隆先生、よろしくお願ひします。上安の息子の小島です。いつもありがとうございます。

寺田正実君 少し寒そうな月は輝いています。秋深まりて、体調管理に皆さん万全を！

鷲見啓兒君 本日は、私用（骨納め）で出かけますので、欠席させていただきます。、申し訳ありません。

## 次週行事予定

11月 4日 長良川クリーン作戦（長滝）

11月 8日 IM報告

11月 5日 職業奉仕研修セミナー（津市）

11月15日 会員卓話

## 出席報告

## 出席委員会 寺田正実君

	会員数	出席者数	欠席者数	補正者数	出席率	出席免除
第2128回	33名	20名	10名	2名	68.75%	1名
第2129回	33名	21名	9名	3名	75%	1名